

シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

<<少子高齢化社会のなか、高齢者はもとより、これから年齢を重ねていくすべての方々が、豊富な経験や技術を活かし、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍していただける社会(生涯現役社会)づくりが望まれています。お元気な高齢者がたくさんいらっしゃることで、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、おゲンキなシニア世代の方々を、シリーズで紹介します。

地域の中で自分を見詰めなおす

“実は老人クラブに入って初めて、年をとってからの生き方が大事だって分かったんですよ”、笑いながらそうお話しになるのは、周南市老人クラブ連合会の会長、國富晃さん。國富さんは老人クラブだけでなく、関門地区の自治会連合会、地区社協、コミュニティ、小さな親切運動徳山支部のお世話も併せてなさっています。

“県庁を退職して、5年間学校で事務を執って、それでリタイア。内部の調整に終始した仕事ばかりやってきて、外とふれ合ったことがない。上司と部下との関係の中で、心を許し合うことさえ稀だった。ですから地元に戻ってきて、地域との関わり方がまったくわからない状態でした。よく言われるように、職場を離れたらタダの人でした。そんな私が平成元年、自治会長をやらされた。ここからですね、第三者と関わることの喜びを得たのは。”

“始めは戸惑いもありました。自分が主張するだけでは話が通らない。だから人の話をよく聞くようになる。違いが理解できるようになりました。こうなってくると、心に余裕が生まれるんですね。人を受け容れることができるようになってきました。地域というのは、自分を見詰

めなおす絶好の場ですね。”

同じ価値観をもつことが必要とされる職場と違って、地域社会にはさまざまな人がいて、多様な考え方があり、生き方は無数にあります。そうした中で違いを認め合い、おたがいを受け容れ合うことの喜びを語る國富さんのお話をうかがっていると、人はリタイアして初めて素の人間に還り、人として本当の意味で成熟していくことが分かりますし、シニア世代を指して「熟年期」と言われることもよく理解できます。

誰かの喜びをつくる幸せ

“昨日は自治会、今日は老人クラブ、明日は地区社協と、毎日なにかしらがありません。不思議なほどに忙しい日々です。60歳だった頃よりも、今の方が元気ですね。いつも人と関わっている、人と一緒に何かをつくっている、誰かの喜びのためにみんなで活動している...、まさに人



人とのつながりがあって、 自分の人生があります。

周南市老人クラブ連合会会長 **國富 晃さん(81)**
Akira Kunitomi

とのつながりの中でこそ、自分の人生がありますね。仕事や自己中心的な活動の中にもいきがいはあろうと思いますが、私にとってのいきがいは、人とつながりながら誰かの喜びをつくること。私は今もなお、人に育てていただいている気がします。”

“今日は、「私事化」の時代とも言われるほどに、「私」が優先されています。時代の流れは認めざるを得ませんが、社会には別の見方があることや、「私」ではなく全体の中で自分の思いを他人と実現させることの喜びにも気づいてほしいですね。”

そう語る國富さんの穏やかな瞳が、キラキラと輝きます。

國富さんのお話をうかがって、朝目が覚めたとき、「今日やることがある」、「地域や誰かの幸せのために出掛けていかなければならないことがある」喜びの大きさを、あらためて感じさせていただきました。